



2021. 12. 18

木の葉が落ちた里山の冬、じっと寒さを耐える動植物の姿が見えるようです。「ヒッ、ヒッ、ヒッ」とジョウビタキをはじめ、冬鳥の声も聞こえてきます。田んぼには水が入り、「冬水田んぼ」の準備も整いました。風のない暖かい日はのんびり散策、この時期ならではの自然との出会いは結構楽しいものです。



穏やかな冬の日

ダイサギ

セグロセキレイ

## 堂谷津の里にもやってきた 外来種のカマキリ

近年、生息が拡大するムネアカハラビロカマキリ、在来のカマキリ、他の昆虫への影響も懸念される。



ハラビロカマキリ



ムネアカハラビロカマキリ



実生株が実をつけた！  
センダンの木

5月に咲いた花

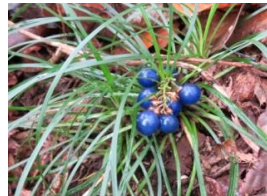


卵で冬越しするクモ

ナガコガネグモ

コガタコガネグモ

冬の日の出会いを楽しむ



ジャノヒゲ



大きくてびっくり！

シュンランの実と花芽



ヤブコウジ



オオイヌノフグリ



タチツボスミレ

### <季節メモ> 稲わらは大切な資源

稲わらは、稲を刈り取り、脱穀した後の茎を干したものです。昔は生活の様々な場面で使われてきました。縄や入れ物、敷物、儀式や祭礼、そのほか納豆などを包んだ藁苞(わらづと)、酒樽などを包んだ菰(こも)、家畜のえさ、燃料や堆肥・・・しかし現在は、コンバインで稲刈り、脱穀、稲わらきざみ等一連の作業をこなしますので稲わらを目にすることも少なくなりました。谷津田など鎌で刈った後でしか手に入らない貴重なエコ素材ですね。 写真・編集 晝間



正月飾りに使われる縁起のよい赤い実「南天」、難を転じるといいますが・・・来年こそ難を転じてよい年になりますように願いを込めて飾り付けました。



稲わらでお正月飾りを作りました